Japanese Patent Laid-Open Publication 59-141557(A)

[Application] Published, August 14,1984; Filed, January 19,1984; Priority: February 1, 1983 France (FR) 83 01727and October 13, 1983, France (FR) 83 016499

[Assignee] Rhone- Poulenc

[Composition] A fungicidal organophosphorous derivative salt [Claim 1] An organophosphorous derivative salt of the formula I:

[where in the formula, R_1 is hydrogen, hydroxyl, lower alkyl containing 1-4 carbon atoms, suitably substituted with halogen atom, hydroxyl, or hydroxylamino; suitably substituted phenyl; or OR_5 in which R_5 is alkyl containing 1-4 carbon atoms; R_2 and R_3 may be the same or different alkyl containing 1-5 carbon atoms or a suitably substituted phenyl; R_2 and R_3 may combine to form- $(CH_2)_m$ -in which m is an integer of 4 or 5; R_4 is alkyl containing 1-18 carbon atoms which is suitably substituted, alkenyl containing 2-18 carbon atoms, or suitably substituted benzyl or phenyl; n is an integer equal to 0 or 1].

EXAMPLE 1 Sulfo(xo)nium's alkylphosphinate salt and phenylphosphinate salt:

Monoethylphosphinic acid (3.8g) and trimethylsulfoxonium iodide (8.8g) were dissolved in water (80ml). To this was added propylene oxide (20ml). Then the medium was heated at 35°C for 3 hours and concentrated at reduced pressure (15-20 mmHg). This gave an oily product which crystallized at room temperature. The crude product was dissolved at 40° in acetonitrile (50ml). The solution was cooled in an acetone-dry ice bath to precipitate the product. The precipitate was filtered and washed with acetonitrile (10ml) and ether(10ml). The product was dried in a vacuum oven.

There was obtained a white hygroscopic solid(4g) melting at 118° C, which correspond to the trimethylsulfoxonium ethylphosphinate salt (Compound No.1).

		•
•		

(19) 日本国特許庁 (JP)

① 特許出願公開

⑩公開特許公報(A)

昭59—141557

⑤ Int. Cl. ³ C 07 C 147/14	識別記号	庁内整理番号 21044H	49公開 昭和59年(1984)8月14日
A 01 N 31/00 57/20		7419—4H 7144—4H	発明の数 5 審査請求 未請求
C 07 C 149/46 C 07 F 9/30		2104—4H 7311—4H	(全 11 頁)

匈殺菌性有機燐誘導体塩

②特 願 昭59-7897

②出 願昭59(1984)1月19日

優先権主張 **③1983年**2月1日**③**フランス (FR)**③**83 01727

②1983年10月13日 ③フランス(FR) **⑤83** 16499

の発 明 者 ギイ・ラクロワ

フランス国69009リョン・ラ・ デュシエール・バルモン332エ フ 砂発明者 クロード・アンダン

フランス国69630シヤポノ・ド メーヌ・ドウ・ラ・スールス・

ニユメロ 2

の発明者アンドレ・ヴィリセル
フランス国69100ヴィルユルバンヌ・リユ・クレマン・ミシュ
39

①出 願 人 ローヌープーラン・アグロシミ フランス国69009 - リョン・ル ウ・ピエール・ペイゼ14 - 20

個代 理 人 弁理士 川口養雄 外1名

明 細 曹

1. 発明の名称

殺菌性有機瓣膀導体塩

- 2. 特許請求の範囲
- (1) 式:

〔 式中、

R₁ は水素原子、ヒドロキシル基、1~4 個の炭素原子を有し、適宜ハロゲン原子 、 ヒドロキシル基もしくはヒドロキシルアミ ノ蒸により置換された低級アルキル基、適 宜電換されたフエニル基、または基OR_B (ととで R_Bは1~4 個の炭素原子を有するアルキ ル基を示す)を示し、

RgおよびRgは何一であつても異なつてもよく1~5個の炭素原子を有するアルキル

基または適宜置換されたフェニル基を示すと とができ、さらに R₂ かよび R₃ は一緒にな つて基・(CH₃)_m- を示すこともでき、とこ で皿は4または5 に等しい整数であり、 R₄は1~18 個の 炭素原子を有し、適宜置 換されたアルキル基、2~18 個の炭素原子 を有するアルケニル基または適宜置換された

nは0または1に等しい整数である] を有する有機縛飼導体の塩。

ペンジルもしくはフエニル基を示し、

(2) 式 I において R₁ が水素原子、ヒドロキシル 基、1~4個の炭素原子を有するアルキル基、 1~4個の炭素原子を有するアルコキシ基また はフェニル基であり、R₉ および R₈ がそれぞ れ1~4個の炭素原子を有するアルキル基、特 にメナルおよびエチル基であり、R₄ がメチル 基または12~16 個の炭素原子を有する辞状 アルキル基で る特許開来の範囲第1項記載の

(乙) 499111-09 距隔柱

° 大野婦の破合かの舞踊り水れていのぼり飛躍の東 1.開田館の永龍神神ともる特神会とろくな行り下

聞いホスポをコ酸合引の【左るむ 8 NO 基本 8 (8)

毎33頁を機関鎖の水間消費を七数燥アでかえより

● 第代 ◎

: 英羽別まれでスエ

: 夫引司を獻媚癖 4 4=(\(\mathbf{v}\) 中 4 A K (L)

$$1 \text{ os } M + I \leftarrow^{++} M \begin{bmatrix} -O - q - \frac{1}{4} \\ 0 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} \frac{1}{4} M - 8 -^{+} (n)O \\ 1 \end{bmatrix} - \frac{1}{4}OS$$

。若衣査獎の砂合小の韓語기☆水やべの恵と南至八 取し展題師の京間刊時るでも増齢まとろるせる司 **河と赴となりたねりしまんなどれなてでガホノコ**

, 」示言(も示されゃれてるも許多千別業 州の略を大は高のRa(とこで Ra は1~4 個の炭 ニエスカルを幾置直嵌、基ペキペで疑ねカバら ♪ 葉をしくはとドロキジグブミノ並により罹免

さが大夫ト村のアゴン、までようろと大丸形を , きかねらろも示き基ベニエで方れる難罰宜能材 **☆生、葢水ギ水でる七酢まそ用素炭の酚 8~ 1** Batura Lin Taborも長まっても見なっても zet

まれたくか方れる異量直転出去を基ベニカルで る七郎ま千周霖岗の邸 8 1~2 , 遙ルキルて式 A 5 幾置直施し許多千別素以の断 8 1~1 11,8 たむしか整数であり、

1 Ladred Late Ln 強数である]

, J 示す甚ペニエて 口 > J

てる七市まそ項素均の働き~し、甚れヅキロリコ , 干別素水址 1月 アペセツ 1 次 , 公式の對關係 に相当する。

。科勒魏

- 。朴彰勧の舞品取 1 萬田錦の木 開補部る色丁基ヘキミパチパチは みんびょせ 8月 ,en .d 函少篇以中に从て五七市名千周素與四國 - 1 灯六を蒸べキペでるで酢含干剤素炭の邸 (3) 式!においてR」がとドロキジル基、
- : 法法国 (G) ○範囲第2項または第3項配載の誘導体。 永覧情許る名丁基ハモエル 月 アハはコー友 (4)

XH - $s-\kappa_{\rm B}$ $B_1 - P - OH + X^-(0)_n$ CH3-CH-E н

路围跡①末魁刊砕出び14 88 , gR , lR

去寺の本容・強・木丁中本権・対水を引える1.7 [ふ&ケ千崩紫光灯) J # 素真、常期 IX , d & T 基 A そ k お A ま 千 風 集 木 出 a H

。哈加胜出西麻穿力六全人心工在出面真然用 兼義る七市合を始合小の維持の代れていの更り 開産代更「開題蹄の來精刊等アブッ代知卦奇

°¥ 大野県の時期る七枚刀炭除る七と増砕まらゴる 大用數字佛為貼の鄰隔與 8 龍囲頭の來精刊神

用物の子のひれる七種粉を帰離なしな他如路均層 殊る七序含者僧台小己れる377近、治式登録の財 合かられる、謝衣熟機の朴英額鞠繳序加門発本 3. 発明の財務 現

: | 大雄一、対峙合小な駄張るしづ時軽本 。る色プのよる七月7日出亡

シャロオコ , 干剤ペヤロへ直嵌し許多干剤素炭 基へでチロイコ , 千周素水却 ,月 ,中天) ルキル基または1~4個の炭素原子を有するアルコキシ港であり、Rg および Ra がそれぞれ1~4個の炭素原子を有するアルキル基、特化メテルおよびエチル基であり、R4 がメテル基または12~16個の炭素原子を有する線状アルキル基である化合物が好適である。

一般式」の化合物は、式:

$$\begin{pmatrix} \mathbf{R_1} - \mathbf{P} - \mathbf{O} \\ \mathbf{0} \end{pmatrix} \mathbf{M}$$

の化合物を水性媒体中でスルホニウム塩もしくは スルホキソニウム塩と反応させる.反応式:

$$\begin{pmatrix} H & H & H & H \\ I & I & I \\ I & I & I \\ I & I & I \end{pmatrix}_{X} M + Y \begin{bmatrix} H_{3} & H_{3} & H_{3} \\ I & I \end{pmatrix} \rightarrow I + MY$$

〔式中、 R_1 、 R_2 、 R_8 、 R_4 および n は式 I におけると同じ意味を有し、かつM は水素原子であ

の酸を水性媒体中で水楽酸受容体、たとえば酸化 アルキレン (たとえば酸化エチレンもしくは酸化 プロピレン)の存在下にハロゲン化スルホニウム もしくはハロゲン化スルホキソニウムと反応させ ることからなつている。

モノ置換された亜燐酸塩の場合(すなわち $R_1 = QR_5$ の場合)、燐酸エステルは、反応式:

にしたがつて対応のジアルキルホスファイトの加 水分解によりその場で製造される。

第2の変法は、反応式:

つてその場合¥はハロゲン原子でありかつx か よび z は 1 に等しく、或いは M は T ルカリ 土類 金属原子であつてその場合 Y は確設イオンであ りかつx および z は 2 に等しい)

にしたがい製造するととができる。

との方法は次の2つの空法に大別され得る:

第1の変法は、反応式:

〔式中、

 R_1 、 R_2 、 R_3 、 R_4 および n は式 1 にかけると同じ意味を有し、

Re は水素原子またはメチル基であり、 Xはハロゲン原子、すなわち塩素、臭素、沃米 もしくは弗素である〕

にしたがつて、式:

$$SO_4^{--}$$
 $\begin{bmatrix} R_3 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix}_{s}^{+-} = \begin{bmatrix} R_3 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}_{s}^{+-} + \begin{bmatrix} H \\ 1 \\ R_1 - P - O \end{bmatrix}_{s}^{+-} + I + M SO_4 \downarrow$

〔式中、 R_1 、 R_2 、 R_8 、 R_4 および n は上記の意味を有する〕

にしたがつて、硫酸スルホニウムもしくは硫酸スルホキソニウムを不溶性硫酸塩を生成する金属M、 特にたとえばカルシウムもしくはパリウムのよう なアルカリ土類金属の臓袋ホスファイトと反応させるととからなつている。不溶性碳酸塩は沈澱し、 とれを炉別し、そして炉液を機箱しかつ必要に応 じ精製する。

以下の実施例により本発明による化合物の製造、 並びにその殺舊特性を示す。これら化合物の構造 は60メガヘルツでの核磁気共鳴分光光度法(NMR) により確認した。

生物学的性質を示す実施例において、保護率が

(4) 295141-65 短期転

因性の限の自由を下層格ででは110111112 キホペスペキャリイ対れる、146時は(84)対 M(IM歯合か)試験とトススポペキエのよなニと

出発物質としてスポルニとのコン型と類性 高手」同でない用まるようで、キポメスパチャット にしたがコロ、 のコトな1 別編、Jではよい をしてしなれているとのよります。 まれたのよりには がはられた。 かれたがまれた。 をはられた。 がはられた。

小光な普載と強くホスポな音楽としる資金の出 いなかし 3階乗り同じし用数を3とよるニホッス

$$\begin{array}{ccc}
H & & & & H \\
 & & & & \downarrow \\
 & & & & \downarrow \\
 & & \downarrow \\$$

:大小己野汝姫台引のガ

ホルモエOA セニホルスハぞちじょ : 2 胟鷸栗

よりまして (を発展でして) を (を) を (を

丁中替素薄丑嶌ケペカ、J限引き帯知出かり鍋沈

: 木北方武獎攻聯合小の次 , へば大しコ剛

した。生成物を徹底乾燥器において乾燥した。

村間對野婦の水 1×-%	C 18 H25	c ^z H²	G H P	38
			CH ²	
J8-28 = .q.M	C 78 H 88	c ⁸ H ⁹	н-0-сн	34
び 8 8 8 4 . M (引みで計)	C 13 H 95	C ⁸ H ⁹	C ³ H ²	33
J. 26 - 26 q. M	C 78 H 88	cH ₈	Gª Hª	SO
J001-26 = 'q.M	C 16 H 88	ен в	C ^S H ^S	61
J 38-08 = , q.M	C 14 H 29	•нэ	C H 2	91
J26-68 = .q.M	C 14 H 88	сн•	C H B	41
J 7 8 = 1 q, M	72H 81 D	сн.	C H s	91
306 = .q.M	C 18 H 27	сн	8 H 8 D	12
J £ 6 = . q.M	C 18 Has	сн ^в	C H 2	> T
J 86 = . q.M	C 18 H 88	снв	C ⁵ H ^P	13
Jas1 = . q.M	сн³	сна	C H ²	15
お面の封弧和7公部、自白	сн•	сн³	C ⁸ H ²	z
24 副 服 佛	1 18	8 H	1 H	99 44. 9 7)

"大士方数游

化合物	R ₈	n	R ₈	R ₄	理 恒 数
4	н	0	CH a	сн.	M.p 125°C
5	н	1	CH 8	СНа	M.p. = 173°C
6	СН∎	0	CH 8	CH,	油状、n _D = 1, 488 .
7	CH8	1	CH ⁸	CH ₈	M.p. = 41°C
8	C ₂ H ₆	1	CH 8	CH⁴	M.p. = 78℃
21	н	0	CH8	C 18 H 85	M.p. = 65°C
22	C 3H2	0	CH8	С ₁₉ Н ₉₅	M.p. = 80°C
23	н	0	сн8	C 18 H27	M.p. = 65°C
24	C 9HB	0	CH8	С ₁₈ Н ₉₇	M.p. = 80°C
25	н	0	CH ₀	C 14 H 29	M.p. = 76°C
26	C ₃ H ₅	0	CH∎	С ₁₄ Н ₉₉	M.p. = 92~93°
27	н	0	сн∎	C 14 H88	M.p. = 80°C
28	C 9H 5	0	СН€	C 18 H88	M.p. = 85°C
36	C3H2	0	Санв	C 19 H 25	M.p. = 65°C

にしたがい、次の化合物が得られた;

化合物	R ₁	. n	R ₄	物理区数
10	н	1	СН	M p = 155C
29	н	0	C 12 H 25	М.р. = 50°С
30	н	0	C 16 H 88	M.p. = 80~85℃
31	сн _а но—с —	0	CH 8	M.p. = 90℃
32	l HO—C	1	СНв	M.p. = 130°C

実施例 4: プドウ権物におけるプドウベト病の原因と なるプラスモペラ・ピチコラ(Plasmopara viticola)に対する in vivo 試験(保護(予防)処理):

鉢植丸栽培したプドウ植物 (CHARDONNAY 個)の

実施例 3: トリメテルスルホニウムの次亜燐酸 塩(化合物底9)の製造:

(職験トリメテルスルホニウム(7.5 8)と水(20 ml)との香液を水(50 ml)中心な 亜燐酸カルシウム(5.1 2 8)n水溶液に加え、媒体を提择して (職力ルシウムを沈澱させた。 宝温にて 0.5 時間 提择を続け、その養沈澱を戸別した。 戸液を過糖 し、残留油をアセトニトリル(100 ml)中に溶 解させ、そして不溶物質を戸別した。 有機溶液を 機箱し、そして得られた油状物をエーテル(200 ml)中で粉砕して結晶を生成させ、これを溶媒中 に分散させた。 沈緑物を戸別し、そして減圧乾燥 粉中で乾燥させた。

これらの条件下で、115~118 $^{\circ}$ にて存船 する白色吸湿性固体(68)が得られた。

出発物質として衣亜燐酸カルシウムまたは1 -ヒドロキシエテルホスファイトおよび適当なトリ アルキルスルホニウム酸酸塩を使用して同じ手順

葉の両面に、試験すべき活性成分を含有する水性 エマルジョンを噴霧処理した。次の成分から成る エマルジョンを噴霧した:

- 一 試験すべき活性成分(40g)
- 一水(40ml)
- ー ツイーン 8 0 (酸化エチレン/ソルピトール の重縮合物のオレイン酸塩よりなる袋面括性剤) (0.0 2 m4)。

との組成の水性エマルジョンは、試験すべき活性成分を18/2含有する。試験すべき活性成分の機度が18/2未満である噴鰯用エマルジョンを得るには、この組成の水性エマルジョンを水で希釈すれば良い。

4 8時間後、真歯(fungi)胞子の水性腸潤物が (約80,000単位/ж) を満の裏側に噴揚すると とにより汚染させた。次いで、これらの鉢を相対 湿度100多かつ20℃の培養槽に4.8時間入れた。

198日20-141224 (2)

、マスガ。大木大田部8~7内置の第0011週間

。 なせる 下型 ケッチャ の 8 分別 数 数 数 数 数 数 数 数 3 分別 数 ま 3 分別 数 ま 3 分別 数 5 分別 数 5

株実品的。大山路智ア」として8年版大化を食

かけると同様、糖果を完全保護または良好な

でから多様下において、18/cの用量で化を 保護として下配に示い。

群攻ところ人を予難界を全張力してひてする派遣

°¥ገ 🛍

: 雑湖

**7166

これら条件下において、19/8 の独与量で化合物 No. 2 は残全な保護を与え、かつ化合物 No. 6 は残らななな機能を与えていまれていない。6、9 とこび 1 2 は良好を保証といる。6

ムセモトてるから因風の飛れ寄立 :7 時態実

(遺縁き 1) 新帝ントナての故合小きか七線類 も1 点題の子刊中智鏡類る七京含含地容觀線、含 歯合小、送合語。大山入等丁(フロ 7) 題越へ高 (m0 1) 皿リインサ下井米圏無念故故る七市含含 並一る七市含含化取出部の量の本館。大北人刊中 国初 2 。大山堤端アゴコミエのこき回じインの 画真きン七鎚箔へ山中の皿リインのられる、遊 を取ける(m 6 超面) 端部築木蘭の(mulnixq)

雄多酚[O (aliyyiou) 谢酚酚干朗以六生,生

マイトでみなと因用の様イやイヤイ : 3 脱族実

° ዮ ૪ ቱ ን

(廃係ふるぐ表大)(elaimarg edgiavra) エニ ・韓項 oviv ni るも依み 木るもある知識部下を含まれ知当的もごと維其

ミモモ・エマンリエる七枚対象大 : 3 内断来

7744747474744

. * ti · \alpha d

。大山与海殿の政府

。大山裸婦主果熱可強日 0 1 0 換形

せて接種した。

次いで、化合物を含まない培地(コントロール) における真図の成長速度と、前配の投与量を含有 する培地における真関の成長速度とを比較した。 真園の成長速度は集落の直径を測定して評価した。

温室内で栽培しかつ約10年の背支に選した小 安植物(TALENT 種) に対して、実施例3 に示 したように調製されかつ本発明による化合物の徴

- 0.18/8 の用量にて、化合物 No.18、19、 20 かよび 27 は完全な保護を与えた。

細菌に対する in vitro 試験:

寒天培地(20 ml)を熱時に復径9 mm の一連のペトリ皿に置き、次いでこの培地を冷却させた。 実験の条件下で細菌の成長に対し不活性である有機溶鉄もしくは水性溶鉄中に試験すべき物質を1 手機度で含む溶液を、定量ピペットを用いて同時 に各ペトリ皿に注入した。

2 4 時間鉄、ペトリ皿の内容物に特定の細菌を 接種し、次いで2 2 で±2 での部屋内で観察した。

とれら植物を凝想の3日後に、抑制剤(試験すべき物質)を含有しないコントロールと細菌集落の成長を肉眼比較することにより検査した。

これら条件下で、次のことが観察された:

- エルウイニア・アミロポラ (Erwinia amylovora, INRA: CNBP 1430) に対し、

3 0 m/4 の用量における化合物 No. 11、12、

種な濃度を含有する水性エマルジョンを噴霧処理 した。

4 8時間後、処理植物に対し、既に汚染された 植物から調製した約 8 0,000 胞子/ngを含有する Puccinia recondita の胞子の水性懸濁物を汚染 させた。

とれら小麦植物を温度約20℃かつ相対速度 100多の裏内に48時間入れた。次いで、相対保 度を60多まで低下させた。汚染後15日目に植 物の状態を検査し、保護多を実施例3に記載した 方法で決定した。

とれら条件下において、次のととが観察された:

- 1 8/4 の用量にて、化合物 No. 13、14 お よび3 0 は完全な保護を与え、かつ化合物 No. 15、17、23、31 および3 4 は良好な保護を 与えた。
- -- 0.3 9/4 の用量にて、化合物No.16、24、 26、28 かよび 29 は良好な抑制を示した。

15、16、19、22、23、24 および27 並びた、

10 m/4 の用量における化合物 No.13、 14 および 2 1 は細菌の成長を完全に阻止し、

キサントモナス・オリゼ (Xanthomonas orysae, INRA: CNBP 1951) に対し、
 3 0 m/4 の用量の化合物 No. 27
 1 0 m/4 の用量の化合物 No. 22、

3 号/4 の用量の化合物 No. 13、14、16、 17、18、21、24、25、26 および 2 8 並び

1 中/8 の用量における化合物 No. 11、12、 15、19 および 23 は細菌の成長を完全に阻止。 し、さらに、

ー コリネパクテリウム・ミシガネンス (Coryne-bacterium michiganense, INRA: CNBP 2108) に対し、

10 m/4 の用量の化合物 No. 11、12、19

(8) 25111-65時間転

东水游戏医水铁点人放刀喘引加己化二,刀划最

こ~ 1.0 対〉 しを残。64 / 55 ~ 80.0 対されつ

。るれちら前列既市JNA角角域の ad/bl

新山校内院出題真。よて筑構を様くの破放脈おれ 3、合献の姓大。ハガルを用炒コガには対ケ越単 対破合かるよ习明辞本, J 編引る七爪助거獲実

ナリヤキ対話不の用剤、3時。ふ七年会工生合脈 **よ院投資面乗る得し容稽上集進むよせかじナヤの 朴所払うしまお固る肝し容相上無差, アリられぬ** おおる唯合からよの関係本なくようし婦上が入る 大、対破気脹とれるを称し用動37の占で顕泉を破

、長丸の前の降略る必金丸があほとれる 、711とち 。るまでならさる七用助会院対話面無の用助ひよせ

ソナモ、廃跡散、廃棄跡、3 トロロ越界別入り去

, 3 永順縣機爲金、順致設, 機數長, 順先一口 /

並びに殺虫特性(特に殺魔虫別または殺闘刑)。

破断力方を(将因の評)更当る主義助金長規修斯

。西当丁独立立 る七市台アコ合勝る七小強ケ既錦丸アの部の田藤

ナナリナヤよび必要に広じ舞園冷性剤と組合化で 上記したように、本務明による化合物は一般に

本明経費にかいて、「キャリナ」とひる用語は本 • 各代各用数

は大る子を飲りる用飯の一架上お大を干部、健康

しょ然天の樹煮加りしま粉青る少台貼ら代均對奇

。八ならま別八付ホワのよる引し容視し枚刀喘節 ヤキのゴ、エビル大」。る七瀬意を開酵取合力〉

対大を(3.4件関本国, スセッワ , 崩壊, カルツ 、直觸形流合力~しる然天、土郡)朴固力ナリナギ

香裳、孔蘭断み、マイセ、ベービベア、水)対抗

。占も丁はよるる七も(ろまべれか弟、粟 水が見ふって、無水が発来べたてそれ対うしき斑

。よるケなとろる七と陈麟郷太大太院療氏、所か **東の卦くまト戦力〉」を對くまとは勝卦奇面異**

, 山砂塩はよよの砂路を白金田乗員 , アウカカリ

於東本上び輸送化社、特比有利化社 0.5~9 b

の範囲は 5×10_m 4~0.5 f (軍事 4) の範囲に

mqq000,8~2.0。各七根據金[爾瓦百入稱]封

Lmqq]。る色子のよれし示すに列破斑脎(seu-ot

-Ybao1)舞規計削機のされる。(4と7山脈攻解助抗る

七市合金品品的 mqq 000.5 ~ 8.0 , 7)建一

供敷の酵合かるよ効段系本のアしち除(鼈)窓

アサ合麻と峠内添切が折打>し 4 お固の煮出プリ

山、本為明による化合物は、海溝の配合技術に応

奇吹公の意子的の子ふて背玄質当る七歯関を長丸

BB水衣表対射合かるよの形形本もプレ収の.qt

Xanthomonas 型 およびその他の Cotynebacterium

、雌てニトセペエガスシカ、闇晰兼典な歴史。る

るえ3世民本、J校3萬全景不なでよの easyto

atibroom aintooug 以える大山方を、歯午でのならよ

Erysiphe sp. (ペト財) もし(社 botrytis O

SER Plasmapore viticola , Phytophthora

大刀砂、遊勘真の節のかなら呼、灯段就実瑞士

1 4/4 の用量における化合物 70,25 かよび

16, 17, 18, 21, 22, 23, 24 1 ℃ 26 . d L , b L , E L .oV 耐合かの量用の 8 人 to E

ガスと大払大を関票から1の muldivg ひ1せ

2.8 住制省の成長を完全に因止した。

altaluoitig 对头占大村大生、惠千胜本仓10

。 るまかねろうとでか変の 田蹄丸ア

。よまひととこる七用効

。ふせ計を用引

24公平

* 1 2 D 1 4

。るで厳治療知識るで存合る資産出計のを量量

-81G-

挙げりる例はポリアクリル酸塩、リグノスルホン酸塩、フェニルスルホン酸塩、ナフタレンスルホン酸塩、酸化エテレンと脂肪族アルコール・脂肪酸もしくは脂肪族アミンとの重縮合物、酸換フエノールもしくはアルアエノールもしくはアリールフェノール、スルホコハク酸エステルの塩、タウリン酵導体(特化アルキルタウレート)並びに酸化エテレンとアルコールもしくはフェノールとの重縮合物の燐酸エステルである。活性成分とよびノまたは不活性キャリャが水不溶性でかつ使用するペヒクルが水であれば、少なくとも1種の表面活性剤の存在が一般に必須である。

したがつて、使用に際し、式 I の化合物は一般 に組成物の形態であり、本発明によるこれら組成 物はかなり広範な種類の固体もしくは液体の形態 である。

固体組成物の形態としては、散布用粉束または 掛りかけ粉末(式)の化合物を100季の紙服まで

活 性 成 分	4007/8
アルカリ金属ドデシルペンゼンスルホン酸塩	249/8
10:1酸化エチレン/ノニルフエノール協合物	169/8
シクロヘキサノン	200 9/8
芳香族港媒	残量
. 8 1	1 4

乳化性機厚物の他の組成物は次の成分を使用する:

	250 9
	, 25 <i>f</i>
g塩と脂肪族 エーテルとの混合物	100 9
	50 P
	575 <i>9</i>
	R塩と脂肪族 エーテルとの混合物

これら後厚物を水で希釈すれば、特に葉に能と すのに適した所望後度のエマルジョンを得るとと ができる。

さらに攻撃により施とし る船滑長厚物は、沈

含有し得る)および粒剤、特に押出し、圧縮、粒 状キャリャの含度、または粉末からの粒剤の生成 により られるもの(とれら粒剤における式[の 化合物の含量は茯者の場合1~80gである)を げるととができる。

液体組成物または使用に瞬し液体組成物に構成 し得る組成物の形態としては、溶液等に水溶性濃 厚物、乳化性濃厚物、エマルジョン、懸濁濃厚物、 エプログル、水和性粉末(または噴霧用粉末) よびペーストを挙げることができる。

大抵の場合、乳化性もしくは可溶性濃厚物は10~80%の活性成分からなり、既製のエマルジョンもしくは溶液は0.01~20%の活性成分を含有する。溶剤の他、必要に応じ乳化性酸厚物は2~20%の適当な磁加物、たとえば安定化剤、製面活性剤、浸透剤、腐食防止剤、染料シよび粘着剤を含有することができる。幾つかの濃厚物の組成物を倒として以下に示す:

降物を形成しない安定な液体生成物を得るように 製造するととができ、とれらは一般に10~75 りの活性成分と0.5~15 りの表面活性剤と0.1 ~10 りのチャントロープ剤と0~10 りの適当 な添加物、たとえば消泡剤、腐食紡止剤、安定剤、 浸透剤および粘着剤ならびにキャリャには活 性成分が難滞性もしくは不穏性である。沈降を防止するのに役立つまたは水に対する凍結防止剤と して作用させるため、或る種の固体状有機物質も しくは無機塩をキャリャ中に溶解させることがで きる。

水和性粉束(または噴霧用粉末)は、一般に20~95%の活性成分を含有するように跨製され、 これらは一般に固体キャリヤの他に0~5%の提 調剤と3~10%の分散剤と必要に応じ0~10 %の1種もしくはそれ以上の安定化剤及び/又は 他の添加物、たとえば浸透剤、粘着剤、固化防止 \$ 9.45

(ナルナ中が関) 74に1十副類

「抗音器により製造することがてきる。通常、粒剤

	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	> 9 7 6	(チリケル) あるじく七 遺遊
大主楽集立に	ひ寸法を有するように削裂され、とす	% 9	4 ((2) 到 4 税 3) 图
= 2 ~ 1 ~ 2 =	土場に施とす目的の粒剤は、一般の	≽ 2:0	保護費券ペギニム
• 9	らまずねよるる七声を一ツンデスツン	≸ 0.4	后性成分(化合物No.2)
中国機なられ	れらは、たとえば「マヨネーメ」の。	: 七承ナJ	よ時37下以多離加脂の末係對番水
	こる七」壁断中太太大を腹水中的力	, , ,	*もりているとはなからなっている。
	: 。るれち合の内内に包含される。 ゴ		
	供工工凭条下水金幣與暴掛北京村	•	お品色も数のつ、4も別でエコトラ
		•	· · 陳夫對山湖小園の ★ 0 ~ 0 多 4 5 b
		おおのを量量	(36~05, 灯末砾进路水, 常歌
 	上記したように、水性分散物かよ1	8508	~ h * 4
64. 3. 04.00 p. n. n.	。 ふきかならさるで用勢河除	208	- 婚台様 1 コテバモ
	たし 配番物 を存に 補物の 兼に 抜こす	. "	ムスホー原ンホッスといるでも
	展で水中に能増もしく仕着罪るせる	308	題が顕成しまります。
無望視さられ	5、16台背攻宋彼る七京全對略無辺	4 00 T	
か 福 副体 か に	豚疹、しょみれる。る七個倍で類質		
はなどあるか	し、そして随台動まえルまたはその		: 宋傳趙昨水の園鑑表01
会政密課与費	- 情性成分を凍治ならずサウザの	# 99T	干業野
, 丸つる野子末	は出帯太力〉し 1 鉛마木のされる	\$ E 7 S	ナセリイナ瀬町ノミベエ
8	(# D00 TT # 4 4 7 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14		
521	がすれて とくしゅう アンストン 明白 関連重要の ファーコンティング	₫ 00⊅	安 神 報 安
\$ 9 2	V-18x-104x		: 宋佛對昨水①獨攤表04
	シャモじれーシャしエンハヤセカント	120 B	4-84/8/14/
2508	会 知 割 割	4 001	~ (* 4
	: 末供對昨水〇萬編章 8.5.	\$ 0E	
2818	~ { * * 4		CC/盤VホペスペントCもひま:2:6 曜台様ドンテペアムハホ〜翅ンホペス
8 9 6 T	6-E468646	8 09 7	もしても聞いホルスルをでもれませた。
8 96 T	4 6 6	8 00L	4 湖 碧 碧
891			: 末佛到昨本の題無407
	4411七畑と市ルスンンをてナルキャン		איני איני איני איני איני איני איני איני
4 6 T	ボキロリングトロークと マナンパントン 明日 国産業 単一 ウィンス・コンティー コンティー	\$ 6€	(廃賦売)べりもた
4 5 7	よ セマハ 女 聞 ′ ホ ハ 木 / ヤ ()	≱ g	は代財 出性 マッカ
\$ 097	化加斯	% ₹	インチャンセンチンチンスススト インチャンスススチンチンスススティート
	25年難度の木和性物末:	# 9	(時間報) 46公本は第2本本本(刊)
240 &	4 6 %	¥ 09	4 海 岩 刮
801	76614		: £
ø 0 9	強ンホルスとソモてナルチで	ホナ」 5 限コ	不以多谢岚盛〇顧魯〇宋佛對昨水
/ ሴነን ታው	マンスンサングン・ファンダイン Mind 20-1412		"西七东台去兰女将梁,陈
(01) 25	コトトド - ロス 四角む		

は 0.5~25 mの活性成分と 0~10 mの添加物、 たとえば安定化剤、徐放性改質剤、結合剤かよび 酵剤を含有する。

拉剤の組成物の例は次の成分を使用する:

活 性 成 分	50 P
エピクロルヒドリン	2.5 9
セチルポリグリコールエーテル	2.5 🕏
ポリエチレングリコール	35 ₽
カオリン(粒径:0.3~0.8 =)	910 🛭

この特定例において、活性成分をエピクロルヒドリンと混合し、そして混合物を60gのアセトンにより溶解させ、次いてポリエチレングリコールとセチルポリグリコールエーテルとを加える。カオリンを得られた溶液で濡らし、次いでアセトンを被圧下で蒸発させる。この種類の微粒剤は、土壌中の真菌類を機能するのに有利に使用される。さらに、式【の化合物は、散布用粉末として使用することができる。また、活性成分(50g)

とタルク(950%)とからなる組成物を使用することもでき、さらに活性成分(20%)と数細シリカ(10%)とタルク(970%)とからなる組成物も使用することができ、これらの成分を混合し、粉砕しそして混合物を散布によつて施こす。

		•